

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立大島高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長 教務部主幹
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、進路指導担当 計6名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
教育委員会教育文化課長、近隣中学校副校長、青少年委員、民生・児童委員、警察署防犯係、大島マリンサービス株式会社総支配人 計6名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和6年6月20日（木）内部委員6名、協議委員2名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
第2回 令和6年11月20日（水）内部委員6名、協議委員5名
これまでの教育活動に関する報告
学校評価の内容検討、協議、協議委員からの教育活動に対する意見
第3回 令和7年2月4日（火）内部委員6名、協議委員3名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和6年6月20日（木）内部委員6名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
第2回 令和6年11月20日（水）内部委員6名、協議委員1名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
第3回 令和7年2月4日（火）内部委員3名、協議委員1名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校経営の評価」「学校に対する満足度」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象： 7人	回収： 5人	回収率： 71%
・12月 保護者全員	対象： 7人	回収： 3人	回収率： 42%
・12月 地域・住民	対象： 37人	回収： 27人	回収率： 73%
・12月 教職員	対象： 8人	回収： 8人	回収率： 100%
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、広報活動、生活の基本ルール（校則）、ライフ・ワークバランスの推進などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定した。
- (4) 評価結果の概要・分析・考察
【生徒】
 - 1 生徒の評価は肯定的な回答になっているが、厳しい意見をもって評価している生徒や自己肯定感が低い状況となっている。生徒たちの状況を把握し、今後も教育活動を行っていきたい。
 - 2 学校生活は充実、学校行事は活発については、高評価で日常の生徒の様子が数値にも現れた。
 - 3 基礎学力が身につけているについては、1名の生徒がそう思わないとのことでした。わかりやすい授業と基礎力の定着に努めていく。
 - 4 読書については、次年度以降も時間を設けて取り組むこと、図書の魅力を発信できるよう努めていく。

5 入学してよかったかについては、高評価であるので、今後も継続する

【保護者】

- 1 今年度は7家庭中3家庭の保護から回答をいただいた。全家庭に協力していただけなかったの
で今後の連絡体制を見直していきたい。
- 2 各設問で回答の多くが高評価であり、おおむね肯定的である一方、授業のわかりやすさ、生活指
導には全家庭から共感を得ることができなかった。
- 3 学校での読書週間を家庭でも行えるよう工夫が必要である。
- 4 定時制に入学して良かったと思っていただけるよう、生徒本人の入学満足度の充実について引
き続き取り組む。

【教員】

- 1 おおむね肯定的な回答である一方、生徒・保護者との乖離がなくなるよう、評価を受け今後も全
員で学校生活の改善に努めていく。
- 2 基礎学力が身についているについては、否定的な回答もあり、授業・学習の補償が必要である。
- 3 授業については、高評価な教員の意見に対し、生徒の中には、低評価な回答もある。生徒の理解
度を確認しながら、今後はさらに、わかりやすい授業となるよう、授業準備をしていく。
- 4 読書に関することは、教員と生徒の意識のずれが小さくなっているものの、まだまだ魅力の発信
が必要である。
- 5 閉庁日（5日以上）を全都立高校で設定し、本校でも年休取得促進を図っており、全教員が年休
15日～20日取得している。今後も、ワークライフバランスの実現を目指し、風通しの良い職
場となるよう更に努める。
- 6 「生活の基本ルール」について改正した方がいいと思いますかという問いには、教員は全員「い
いえ」と答えており、現状を維持していく。

【地域】

- 1 定時制の存在や島外からの生徒、島内で働いていることについては、概ね認知されている。
- 2 清掃・夜間パトロールの認知度は、低い、今後も継続すると同時に、島民の方にも案内を知って
いただく努力をしたい。
- 3 定時制のポスターは多くの方の目に届いているようです。一方、ホームページについては、まだ
まだ閲覧されていないことがわかった。ポスターにQRコードを示し、一層の情報発信に努めて
いく。
- 4 三修制の認知度もまだまだ低いようです。現在は三修制を実施しない都立夜間性高校が増えて
いるのでアピールをしていく。
- 5 毎日の給食から、認知度は高まったことが言える。今後もおいしい給食で生徒の心の栄養になる
時間としていく。

【全体】

今年度は、Microsoft Forms での3回目の実施となりました。学校評価アンケートの依頼と
一緒に、万が一回答できない場合は紙面での回答でもよいことを伝えたからか、非常に多くの地
域からの協力が得られました。（2年前 73.3⇒昨年 50.0⇒今年度 73%）

また、定時制課程への問い合わせが毎学期ありますので、広報活動とともに生徒や保護者から
愛される学校づくりを今後も継続していく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校からは、生徒の様子や学校が取り組んでいること等を委員に発信していった。
- ・委員からは、地域と連携した取り組み、大島町が行っている事業等、警察で取り扱う近年の事件等
についての注意喚起等の伝達等があった。地域と連携していくことの重要性を再確認することができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・定時制課程は、少人数であるが島民にとっては、必要不可欠な学校であるという認識である。
- ・公開講座や地域への学校開放等学校の役割がある。
- ・学校施設の老朽化についてのご意見もあった。トイレ等今後修繕の必要性を町の方の方が認識されて
いる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（１）学校運営

- ・清掃活動や夜間パトロール等、地域との連携事業を継続的に実施する。
- ・公開授業等地域への広報活動を継続させる。

（２）学習指導

- ・進路に合わせた個別指導を組織的、継続的に実施する。
- ・相互授業の見学や情報交換、研修などにより授業力向上を図る。

（３）特別活動

- ・大島の自然を体感し、地域との連携を図り、地域貢献活動を継続実施する。
- ・生徒の情緒を育む活動を増やしていく。

（４）生活指導

- ・セーフティ教室、避難訓練や健康講座、食育講座により、心と体の健康や安全教育、生命尊重の教育を推進する。

（５）進路指導

- ・キャリア教育全体計画をもとに進路指導を組織的に実施する。
- ・進路希望に応じた面接指導や補習・講習・小論文指導等を行い、進路実現を図る

（６）健康・安全

- ・スクールカウンセラーや専門医派遣事業を活用し、教育相談担当教員、特別支援教育コーディネーター、担任など、それぞれの立場や役割を分担して組織的な相談体制を充実させる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（１）協議委員人数 6人

（２）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

【成果】 なし